

- 問1 地域調査の資料として、逗子駅から逗子海水浴場までのルートを2万5千分の1地形図で確認したところ、駅と海岸線までの図上の長さが4cmでした。このとき、実際の実測（水平距離）は何メートルになりますか。計算の結果として正しいものを選択しなさい。（2025年 東京都公立入試 類似）
1. 2,500メートル 2. 1,000メートル 3. 500メートル 4. 100メートル
-
- 問2 2015年の統計において、東京都の住宅地の平均地価は1平方メートルあたり323.8千円と、周辺の埼玉県、千葉県、神奈川県に比べて著しく高い数値を示しています。このような状況下で、東京都の「昼間人口」が「夜間人口（常住人口）」を大きく上回り、昼夜間人口比率が118.1%に達している主な理由として、最も適切なものはどれですか。（2017年 徳島県公立入試 類似）
1. 住宅地の平均地価が高い東京都を避け、住居を周辺県に求めながら、都内へ通勤・通学する人が多いため。
2. 周辺県の住宅地の平均地価が東京都を上回ったため、都内に住居を構えて周辺県へ通勤・通学する人が増えたため。
3. 東京都内の大学や事業所が次々と周辺県へ移転したことで、周辺県から都内へ買い出しに来る人が増えたため。
4. 東京都の夜間人口が急激に増加したことにより、相対的に昼間の活動人口が少なく見えるようになったため。
-
- 問3 江戸時代の古地図と現代の地形図を比較する学習において、現在の特許庁や外務省などが立地している江戸城西の丸の東側のエリアに注目しました。当時のこの場所の主な土地利用の形態として、古地図から読み取ることができるものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 徳島県公立入試 類似）
1. 果樹園 2. 広葉樹林 3. 針葉樹林 4. 茶畑
-
- 問4 日本の太平洋岸を低緯度から北上する暖流で、別名を日本海流と呼ばれる海流はどれですか。最も適切なものを選んでください。（2022年 徳島県公立入試 類似）
1. 対馬海流 2. 親潮 3. 黒潮 4. リマン海流
-
- 問5 東京都中央卸売市場におけるキャベツの月別出荷量を確認すると、愛知県や千葉県は1月から5月にかけての出荷が多い一方、群馬県は7月から10月にかけて突出して出荷量が多くなっています。群馬県がこの時期に大量の出荷を可能にしている背景として、最も適切なものはどれですか。（2019年 新潟県公立入試 類似）
1. 消費地である東京に近いため、輸送コストを抑えて年間を通じて安定した供給を行っているため
2. 冬の寒さが厳しいため、大規模なビニールハウスや温室などの施設を利用して成長を早めているため
3. 標高の高い地域特有の夏の涼しい気候を利用して、平地での生産が難しい時期に栽培しているため
4. 広大な平坦地を活かして大型機械を導入し、他の地域よりも短期間で大量に収穫しているため
-
- 問6 日本の都道府県を分類した際、県名と県庁所在地の都市名が異なるグループに属する県があります。関東地方の群馬県、東海地方の愛知県、四国地方の香川県、九州地方の宮崎県の4つの県について、その特徴を説明した文として正しいものを選びなさい。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
1. 宮崎県のみが、県名と県庁所在地の都市名が異なっている。
2. 4つの県はすべて、県名と県庁所在地の都市名が一致している。
3. 群馬県と愛知県は一致しているが、香川県と宮崎県は異なっている。
4. 群馬県・愛知県・香川県の3県は、いずれも県名と県庁所在地の都市名が異なっている。
-
- 問7 関東地方に位置し、横浜市などの大都市を擁する地域における産業構造の特色を説明した資料があります。その資料において、外国人観光客数が年間120万人を超え、就業者割合が第一次産業で約2%、第二次産業で約23%、第三次産業で約75%を示している地域の状況として、最も適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）
1. 東京都に隣接しているものの、豊かな自然景観を保護するために開発が制限されており、第三次産業よりも第一次産業の成長が著しい。
2. 広大な平野を利用した近郊農業が盛んであり、就業者の大半が第一次産業に従事しているが、観光地としての側面も併せ持っている。
3. 都市化が進んでおり、商業やサービス業を中心とした第三次産業の割合が極めて高い一方で、工業地帯を抱えるため第二次産業も一定の割合を維持している。
4. 内陸部の工業団地開発により第二次産業の割合が全国で最も高く、製造業に従事する外国人労働者が多いため、観光客数も増加傾向にある。
-
- 問8 東京都中央卸売市場において、キャベツの出荷量のうち関東地方の県が占める割合が40パーセントに達している背景には、どのような農業の特色がありますか。最も適切な説明を選んでください。（2023年 山口県公立入試 類似）
1. 暖かい気候を利用して、他の地域よりも出荷時期を早める促成栽培が大規模に行われているため。
2. 広大な土地を活用し、機械化を進めることで、九州地方などの遠隔地から大量に輸送する体制が整っているため。
3. 大消費地である東京に近い利点を生かし、鮮度の高い野菜を供給する近郊農業が盛んであるため。
4. 標高の高い地域の涼しい気候を利用して、夏でもキャベツを栽培できる高冷地農業が発達しているため。
-
- 問9 日本の産業統計において、工業出荷額が約13兆円規模であり、印刷業や輸送用機械が一定の割合を占める県の産業構造について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この県は農業も盛んで、米の産出額は新潟県には及ばないものの、長野県などの野菜生産が盛んな県と同様に、高い農業産出額を維持しています。（2025年 埼玉県公立入試 類似）
1. 印刷業の出荷額が全国1位であり、米の産出額も新潟県を上回って日本最大の農業県となっている。
2. 工業出荷額のほとんどを化学工業が占めており、農業は米の単一栽培のみが行われている。
3. 京葉工業地域の一角を担う工業の発展とともに、都市近郊農業や稲作などの農業がバランスよく発達している。
4. 内陸部に位置する利点を生かし、輸送用機械の製造に特化しており、農業は東京都への供給を目的とした野菜栽培に限定されている。
-
- 問10 都市の人口構造を示す「昼夜間人口比率（夜間人口を100とした時の昼間人口の割合）」について、東京23区のようにこの比率が100を大きく超える地域の特徴として、最も適切なものはどれですか。（2021年 埼玉県公立入試 類似）
1. 郊外に大規模なニュータウンが形成されており、夜間に多くの人々が帰宅してくる居住機能が中心である。
2. 周辺の県に比べて農地や工場が多いため、日中に周辺地域へ働きに出る人が多い。
3. 都市の中心部にオフィスや学校が集中しており、周辺地域から多くの人々を吸い寄せている。
4. 地価が安いいため、中心部に住居を構える世帯が多く、夜間人口が昼間人口を上回っている。
-
- 問11 東京都には多くの企業の事業所や大学が集中しているため、周辺の各県から多くの人々が移動してきます。このような都市機能の集中が東京都の人口動態に与えている影響として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 奈良県公立入試 類似）
1. 都心の地価が高騰した影響で、居住地が郊外へ広がり、都心部の夜間人口が周辺の県に比べて極端に多くなっている。
2. 交通網の発達により、地方都市から東京都への通学が容易になったため、東京都内にある大学の数は減少傾向にある。
3. 高度な経済機能が集中した結果、地方からの人口流入が止まり、東京都と周辺の県との間での人口移動はほとんど見られなくなっている。
4. 企業の事業所や大学が都心に集まっているため、周辺の県から東京都へ向かう通勤・通学者が多く、昼間の人口が夜間の人口を大きく上回っている。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 1,000メートル	2万5千分の1地形図において、実際の距離は図上の長さを25,000倍することで求められます。 4cm × 25,000 = 100,000cmとなり、これをメートルに換算すると1,000m（1km）となります。地形図の読解においては、縮尺を利用した距離の算出が重要です。
問2	答え 1 住宅地の平均地価が高い東京都を避け、住居を周辺県に求めながら、都内へ通勤・通学する人が多いため。	東京都は日本の政治・経済・文化の中心地であり、多くの企業や学校が集中しています。しかし、資料にある通り東京都の住宅地の平均地価は周辺県に比べて非常に高いため、人々は地価の比較的低い埼玉県や千葉県、神奈川県などの周辺県に住居を構える傾向があります。その結果、平日の昼間には周辺県から東京都へ多くの人が通勤・通学のために移動し、昼間人口が夜間人口（常住人口）を上回る「昼夜間人口比率」が高い状態になります。
問3	答え 1 果樹園	江戸時代の古地図には当時の土地利用を示す記号や名称が記されており、江戸城西の丸の東側には果樹園が広がっていたことが示されています。このように古い地図と現代の地形図を照らし合わせることで、現在の官公庁の敷地や道路網が、かつての屋敷跡や特定の土地利用の境界線を土台として形成されていることが理解できます。
問4	答え 3 黒潮	日本の太平洋側には、南から暖かい海水を運ぶ「暖流」である黒潮が流れています。この海流は「日本海流」とも呼ばれ、日本の気候に大きな影響を与えています。一方、北から流れてくる寒流は親潮（千島海流）であり、これらが東北地方の沖合（潮目）でぶつかり合うことで豊かな漁場が形成されます。
問5	答え 3 標高の高い地域特有の夏の涼しい気候を利用して、平地での生産が難しい時期に栽培しているため	キャベツは本来、涼しい気候を好む野菜です。夏の気温が高い時期、平地にある愛知県や千葉県などの産地では生産量が落ちますが、群馬県の標高が高い地域（高冷地）では、その涼しさを利用して栽培が可能です。市場での供給が少なくなる時期に大量に出荷することで、農家は有利な価格で販売することができます。
問6	答え 4 群馬県・愛知県・香川県の3県は、いずれも県名と県庁所在地の都市名が異なっている。	群馬県の県庁所在地は前橋市、愛知県は名古屋市、香川県は高松市であり、いずれも県名と都市名が異なります。これに対し、宮崎県の県庁所在地は宮崎市であり、県名と都市名が一致しています。全国の都道府県を学習する際は、このように名称が異なる県を整理して覚えることが重要です。
問7	答え 3 都市化が進んでおり、商業やサービス業を中心とした第三次産業の割合が極めて高い一方で、工業地帯を抱えるため第二次産業も一定の割合を維持している。	神奈川県（横浜市付近）は、人口が集中する都市部において商業やサービス業といった第三次産業が高度に発達しており、就業者割合の約4分の3を占めています。同時に、京浜工業地帯などの工業集積があるため、第二次産業の割合も20%を超える水準を保っているのが特徴です。また、国際的な港湾都市である横浜などは外国人観光客にも人気のスポットとなっており、100万人を超える規模の観光需要を支えています。
問8	答え 3 大消費地である東京に近い利点を生かし、鮮度の高い野菜を供給する近郊農業が盛んであるため。	千葉県や茨城県などの関東地方では、巨大な消費地である東京に隣接しているという地理的条件を活かした「近郊農業」が発展しています。キャベツのように重量があり、鮮度が求められる野菜は、輸送距離が短い近郊地域からの出荷が有利になります。そのため、東京都中央卸売市場の出荷量統計においても、関東地方の占める割合が約4割という高い水準になっています。
問9	答え 3 京葉工業地域の一角を担う工業の発展とともに、都市近郊農業や稲作などの農業がバランスよく発達している。	千葉県は、東京湾沿いの京葉工業地域での鉄鋼・化学・印刷などの重化学工業や製造業が盛んであると同時に、平坦な土地と温暖な気候を利用した農業も非常に盛んです。米の生産だけでなく、キャベツやネギ、落花生などの野菜生産においても全国トップクラスの産出額を誇っており、工業と農業の両輪で経済が成り立っているのが特徴です。
問10	答え 3 都市の中心部にオフィスや学校が集中しており、周辺地域から多くの人々を吸い寄せている。	昼夜間人口比率が100を超える（昼間人口 > 夜間人口）ということは、その地域が仕事や教育の場としての機能を強く持っていることを意味します。東京23区や大阪市中心部などがその典型例です。一方、100を下回る（昼間人口 < 夜間人口）地域は、居住機能が強い「ベッドタウン（衛星都市）」としての性格が強いと判断できます。
問11	答え 4 企業の事業所や大学が都心に集まっているため、周辺の県から東京都へ向かう通勤・通学者が多く、昼間の人口が夜間の人口を大きく上回っている。	東京一極集中の具体的な状況を説明した問題です。東京都には就職先となる事業所や教育機関である大学が極めて多いため、近隣の神奈川・千葉・埼玉などの各県から毎日多くの人が通勤・通学のために流入します。このため、東京都（特に都心部）では、夜間に住んでいる人口よりも、昼間に活動している人口の方が多くなるという特徴が生じます。